

## 第 4 回琴浦自分ごと化会議結果

|              |  |
|--------------|--|
| 会議趣旨         | 第 1 回から第 3 回までの会議で議論した内容を提案書として町長に提出するにあたり、素案について協議し、確認や修正等を加え整理した。  |
| 会議概要         | <p>1 日時            2/6 (土) 13 時 30 分～17 時 00 分</p> <p>2 場所            まなびタウンとうはく 4 階多目的ホール</p> <p>3 参加者        町民委員 16 名、傍聴者 7 名、企画政策課、構想日本</p> <p>4 全体協議</p> <p>    ①前回までの振り返り</p> <p>    ②委員により提案書案の内容を精査</p>  |
| 議論内容<br>委員意見 | <p><b>提案 1  琴浦町民の移動のニーズ（実情）の把握を行い、日常生活に必要な交通手段の確保が困難な町民を支える。</b></p> <p>項目①：町民の移動手段や地域の実情の把握を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間事業者が撤退する状況の中、町は交通をどうしたいのか。&gt; (町) 将来、町の交通はどうあるべきかを自分ごと化会議で議論してもらいたいと考えている。</li> <li>・ 交通にかかっている税金、赤字額、委託額を提示してアンケートをするべき。</li> <li>・ 行政の役割としてアンケートを実施、分析を行った後、その結果を地域に返して意見の場をつくる。</li> <li>・ 今の実態を示した上で、アンケートを行政が行う。</li> <li>・ アンケートの取り方を考える。結果について考える場をつくる。</li> <li>・ 個別の意見は提案書に残すのか &gt; (構想日本) 残す</li> <li>・ 会議の参加して初めて知ったこともあるので、アンケートをとる場合は現況のデータをオープンにしながら取る。</li> <li>・ アンケートは世帯主のみというケースがあるので、対象をどうするか検討してもらいたい。</li> <li>・ アンケートの内容にはスクールバスも含める。</li> <li>・ 言葉の定義をはじめに決めたほうがよい。</li> <li>・ 様々なデータをしっかりと町民に開示することが重要なポイント</li> <li>・ それに基づいて、どんなアンケート（対象、内容）にするか考える。</li> <li>・ アンケートの内容を開示して、町民が意見を言える場をつくる。</li> <li>・ アンケートについては、集計だけでなく分析も行政で行う。</li> </ul> |

|   |
|---|
| <p>項目②：民間事業者や医療機関と連携し、移動販売・在宅医療の充実等を図る</p>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「民間や医療機関と連携し、移動販売や在宅医療などの検討を行う。」の表現を明確に修正する。</li> </ul>  |
| <p><b>提案2 「町民の生活を支えるためには、どのような移動手段を確保する必要があるのか」の視点から、今後の公共交通のあり方を再検討する。</b></p>   |
| <p>項目①：公共交通の利用者を増やす</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町営バス利用者が2万5千人減少している。この数値のもつ意味を分かるようにしては。</li> <li>・ 現実に利用者が減少している中で、提案項目をなくした方がよい。利用者を増やすことはできないと思う。</li> <li>・ 少子高齢化を解決しない限り、解決しない。</li> <li>・ 提案の順位を下げる。町民としては、環境配慮の面からバスやタクシーを利用する。雇用確保の面からも必要。</li> <li>・ 交通は、なくなっていいものではないが、現実的には利用者増は困難では。</li> <li>・ 公共交通を維持するための提案として表現を見直してはどうか。</li> <li>・ 現状のままでは、タクシーの撤退は濃厚であるが、残す方向で次の対策が必要。</li> <li>・ タクシーは、透析利用者など命に関わる。何らかの形で残してほしい。</li> <li>・ 透析患者など各病院が送迎すればよい。倉吉市の病院など行っている。サービスの一つである。それに対して町が補助金を出す。通院には助成してよいが、買い物には助成しなくてよい。</li> <li>・ 独居高齢者に対しては、買い物に対するタクシー助成はあった方がよい。命に関わる。</li> <li>・ 買い物困難者には、コープ（生協）の配送などを高齢者に情報を伝える。選択肢が増える。</li> <li>・ 外にでることは、高齢者の生きがい、生活の質を上げる。</li> <li>・ UD タクシーは障がいのある人が移動しやすい。車イスの方は、共助交通に参加できない。タクシーを残すことは難しいが、地域には必要なもの。</li> <li>・ 高齢者は、買い物で外に出て触れあうことは必要。タクシーという選択肢はあった方がよい。</li> <li>・ タクシーを残すには、町が補助してかなければならない。</li> <li>・ 多様な交通の選択肢を地域に残していく。障がいのある方などタクシーが本当に必要な方には、行政が支援していく。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>項目②：公共交通の維持するコストを減らす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスやタクシーの利用促進は、利用者増の項目に移動した方がよい。</li> <li>・ 中学生のバス通学を3 km以上としなくてもよいのではないか。</li> <li>・ 小学生に対して自転車通学を許可することは提案としては反対。</li> <li>・ バス通学に関する提案は、公共交通の効率化としての意見ではなく、個別の意見とする。</li> <li>・ 業務委託費が高い。便数の減少、ダイヤの見直しによりコスト減を目指す。役場職員が免許を取って運転することでコストが安くなるでは。検討を促す。</li> </ul> <p>項目③：公共交通の担い手（ドライバー）を確保する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共助交通のドライバーについては、共助交通の提案に移動</li> <li>・ 行政の取組として高齢者ドライバーを把握し、確保する取組を追加する。</li> <li>・ ドライバーの報酬を増やす提案は、個別の意見とする。</li> <li>・ ドライバーの定義を明確にする。</li> </ul> <p>項目④：路線バスとスクールバスの効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者の車に交代で生徒が乗り合わせるは全体の提案ではなく、個別の意見にしては。</li> <li>・ スクールバスと町営バスは切り離して考えるべき。町営バスが通学の時間帯と合わないことからスクールバスができた。</li> <li>・ 教育的立場からも、小学生と一般客とが一緒になって乗ったほうがよい。あいさつなど教育的観点、採算面など一緒に乗るメリットがある。</li> <li>・ 一緒に乗ることはよいが、スクールバスに余剰があるから、一般客も一緒に乗るという考え方にする。路線バスありきでない。</li> <li>・ 一般客もスクールバスに乗せてもらうという考え方でよい。</li> <li>・ 提案書の内容は、周知するのか。&gt;（町）町報に記載して町民周知する。町報には個別意見は掲載しない。ホームページには個別意見も含めて掲載を予定している。</li> <li>・ スクールバスとしてその時間帯は、学生を優先する。</li> <li>・ バスのルートでもあるのでスクールバスのルートを変更できない。</li> <li>・ スクールバスは、単独での運行の方がスケジュール、ダイヤが組みやすい。</li> <li>・ 以前、距離のある小学生は、一般のバスに乗っていたが、小学校等の際にスクールバスができたのであれば、それを維持する必要がある。</li> <li>・ 先生に大型免許取得を求めることについては、個別の意見とし、注釈を入れる。</li> </ul> |
|--|---|

- ・ 個別の意見をそのまま公表するのはどうかと思う。
- ・ (構想日本) 文言については、構想日本と町とで調整する。
- ・ 町長提出の提案書とホームページに掲載する提案書は内容を分けてはどうか。
- ・ 個別意見については、提案書からは外しては。
- ・ 提案内容と提案に至らなかった個別意見として分けて別冊で整理しては。

**提案3 将来にわたって移動手段を確保できるよう、町内の各エリアに合った共助交通の体制を構築する。**

**項目①：地域で移動を支え合う「共助交通」の体制を作る**

- ・ チップの増額を強要しないの表現は、趣旨を勘案して整理する。
- ・ ウーバーのようにドライバーと利用者が相互に評価できる仕組みがあればよい。
- ・ お互いに気持ちよく利用できる仕組みとするよう表現を修正する。
- ・ どのような共助交通を目指した上で、町民・地域・行政等の取組の書き方になっていないので、不明瞭になっている。
- ・ どのような共助交通を目指すのかが議論できていない。
- ・ 意見をそのままベタ打ちしすぎている。
- ・ 大刀洗町の取組を聞いたときの意見であり、琴浦町の取組に対する意見とは違う。
- ・ 上中村線の実証実験を一つの例として掲載して、意見を記載する形にしてはどうか。
- ・ 共助交通の仕組みを町に提案してほしいということか。
- ・ 町に共助交通として何をしてもらいたいのか。
- ・ 共助交通は各エリア毎にスタイルが違おうと思う。各エリアに合った共助交通の仕組み作りを町はサポートする。町はサポートであり、実施は地域である。
- ・ 地域にはノウハウがないので、サポートが重要。実証実験など仕組みのサポートがいる。
- ・ 主体的に共助交通をつくるのは地域・町民である。町にはサポートや事例紹介などを求める。
- ・ 提案内容が変更となれば、町民・地域・行政等の取組のそれにあわせて変わってくる。
- ・ 町には、共助交通のコーディネートをしてほしいという提案となるのでは。
- ・ 提案には地域と行政が支え合う共助交通という表現を追加してはどうか。
- ・ (構想日本) 提案文書については調整する。趣旨としては、地域と町民と行政が一緒になってやっていく。

- ・ 共助交通がどうあったらいいのかの意見が多くあった。

#### **提案4 暮らしを助け合える元気な地域をみんなで作っていく。**

##### **項目①：助け合える地域づくり**

- ・ (構想日本) 地域づくりの土台になる部分なので、意見提出シートにて追加の意見があれば記載して提出してもらいたい。

##### **自分ごと化会議委員より感想**

- ・ 住んでよかったと思える、いい町をつくっていただきたい。
- ・ 共助交通の取組や実験について知ることができ、勉強になった。琴浦町は海の山もあり良いところである。このまま維持できるよう協力していきたい。
- ・ 自分ごと化会議委員になって、町営バスを使ってみた。実際のバス利用者の意見を取り入れて、困らないようにしてもらいたい。
- ・ 地域交通問題を身近に感じた。子や孫が大きくなったときに困らないまちづくりをしていくことが私たちの仕事と強く感じました。
- ・ 自分とは違う見方をしている人の考えを聞いて勉強になった。結婚して琴浦町に来たので、とてもよい人ばかりで協力してもらえる人が多い。共助交通についても上手くいくと思いました。
- ・ 沢山発言することができた。ありがとうございました。
- ・ 自分ごと化とは何かと思って参加した。交通の問題が自分のことだと思って少しでもボランティアで活動できたらよいと思いました。
- ・ 山間部でも助け合いにより、誇りをもって暮らしていきたい。
- ・ 地域の共助交通を実施していきたいと強く思いました。意見を参考にして実施に向けて頑張りたい。
- ・ 共助交通について年内に実現したいと思って、取り組んでいる。
- ・ 自分ごと化会議に参加して、知らなかったことが沢山知ることができた。もう少し町政について興味を持っていかなければいけないと感じました。
- ・ 関わってみると町政について考えることが増えた。有意義であった。バスが通る度に人が乗っていないなど見るようになった。周囲にも意見を聞いたりしてきた。またこういった会議があったら参加したい。
- ・ 暗いニュースが多いが、琴浦町が元気になるようお願いしたい。
- ・ 今コロナ禍で家に閉じこもり、仕事の少ない。こういう場にてきて聞くことも大事。住民として大切なことは何かを考えて実践していきたい。
- ・ 地域には困っている人が沢山いる。安心して乗り降りできる交通手段ができるこ

とを期待しています。

- ・ この会議で色々な意見が次々に出て、いい会議だったな、いい町だなを実感した。